

## 平成 28 年度「第 1 回広島大学マスタース講演会」報告

平成 28 年度「第 1 回広島大学マスタース講演会」が下記の要領で開催された。

演題：「香りへの招待」

講師：平田敏文（広島大学マスタース会員）

日時：2016 年 6 月 12 日（日）13:30～15:00

場所：東広島市市民文化センター研修室 1・2（サンスクエア 2F）

入場：無料

主催：広島大学マスタース 共催：広大マスタース友の会

講演では、太古以来の「香り」と人間との係わり合いについて、歴史的背景からアロマセラピーまで、「香りの文化」、「香りの化学」、「香りの生理学」の視点から、パワーポイントを用いて素人にも分かりやすく説明していただき、「香り」への学問的アプローチを身近に感じることができた。講演要旨は以下のとおり。（原野 昇）

### 【講演要旨】

生き物にとって、香りは“情報伝達”の手段として必須のものです。人間はいつしかそれを“楽しむ”ものに変えてきた。「香りは人間にとって何か？」について、「香りの文化」、「香りの化学」、「香りの生理学」の項目にわけて解説した。



### （A）香りの文化 香りの人間との係り合い

#### （1）古代の香り そのルーツを訪ねて

(a) 古代エジプトで使われてきた香り：「乳香」と「没薬」

(b) ギリシャ神話に出てくる香り：「薄荷」と「バラ」

(c) キリスト生誕物語に出てくる 3 つの献上品（宝物）：「乳香」、「没薬」、「黄金」

(2) 日本古代の香り

- (a) 万葉集や古今和歌集に詠われた香り 万葉集にはなぜ香りの歌が少ないのか？
- (b) 歴史にみる貴重な香り：「竜腦」と「蘭奢待」

(B) 香りの化学

(1) 植物や動物から採れる香り成分

- (a) 身の回りの香り植物 “香り”は認知症予防になる？
- (b) 花の香りの三大女神：「ローズ」、「ジャスミン」および「ネロリ」
- (c) 動物からの香料：「龍涎香」と「ジャコウ」 媚薬になる？

(2) 香りの成分（精油）の採取法

- (a) 水蒸気蒸留法
- (b) 溶剤抽出法
- (c) 吸収法

(3) 香りを決める化学物質

- (a) マツタケの香り；バニラの香り；ワサビの刺激臭
- (b) 香りの芸術 - 香水や食品フレーバーの開発

(C) 香りの生理学

- (1) 動物や植物にとって香りとは何か キャベツとモンシロチョウの駆け引き
- (2) 香りのセンサー（嗅覚器官）の仕組み 人間の嗅覚機能は蛙なみ？
- (3) 香りの脳への伝達機構 人間は香りを総合的に記憶する。

余談を混ぜたせいで講演時間が足りなくなり、質問の時間が取れなくなってしまったが、講演後に「廣大マスターズ友の会」との交流の場が設けられていたので、その際にいろいろな質問やご意見を伺うことができ有難かった。

(平田敏文)